



News Letter no. 26

ニュース・レター

日本図書館協会児童青少年委員会 2021.1.13

ISSN 2188-6067

引き続き、2013年から2019年に受講された方々から、

- 1 専門講座の思い出
- 2 今、何をされているか
- 3 今年度予定していた講座内容をみて感想や提案をまとめて頂きました。

第3回目の今回は、7人の方の文章を掲載いたします。専門講座への提案として、

- ・座学だけでなく、実践的な講義内容があった方が理解が深まった。
- ・講座の開催方法について。
 - ※オンラインでの利点を生かし、新しい環境下での講座の実施を検討してほしい
 - ※受講生間の交流もこの講座の強みであるので、対面での開催を続けてほしい
- ・講座内容について。
 - ※学習指導要領と児童サービスの関係
 - ※0～8歳の知識の本に特化した選書や除架について
 - ※(自分の)受講当時のものが継続されていてよい
 - ※新たな視点、講座内容も加えていくべき

などのご提案をいただきました。講座受講後の現在も受講生の交流は続いており、コロナ禍での各自治体の対応を共有できた、近況報告や実践報告が心強い、という意見もありました。

今後も、連載を予定しております。2012年以前に受講された方、受講はしていないけれど、という方々からのご意見をお待ちしております。日本図書館協会児童青少年委員会担当へお知らせください。

第33回 児童図書館員養成専門講座の思い出

第33回(2013年)受講生 高柳 公香
(市川市中央図書館)

私は、2013年に講座を受講しました。2013年の受講生は全部で13名。

受講が決まってからも、課題の多さや提出の期限厳守、出席時の遅刻厳禁などを先輩方が何度も語られていたので、講座の初日から緊張していたのを覚えています。最初の講義は、坂部豪先生で、2回目は熱血川上博幸先生でした。川上先生の情熱的な指導は印象的で、児童図書館員としての覚悟を学ぶことができたと思います。基本的事項や、課題で提出した資料をもとにした講義は、子どもに接するケースを想定しての先生の鋭い指摘と講評で、川上先生の「子どもに尋ねられたら、どんなに忙しくても決して、「後で。」と言わないこと。一度、断ったら二度と子どもは聞いてこない。」というお言葉は忘れられません。子どもの心を大切にする信念を強く感じました。受講後、川上先生と受講生で駅近くの喫茶店でお茶をしたのは楽しい思い出です。まだ慣れない環境の中、先生の楽しいお話で受講生が皆リラックスでき、仲良くなって、絆が強くなっていったと思います。

前期後期とも、東京子ども図書館の松岡享子先生をはじめ、魅力あふれる先生方の講義を受講

り広い会場への変更、参加人数の制限、使用用具の変更や消毒、プログラム内容の変更など様々な対策をとった上で、参加者には検温、手指の消毒のご協力をお願いなどを行っています。これから、児童サービスの提供方法も大きく変わっていくのではないかと思います、基本は変わることはありません。今年度は講座が中止されたと伺いましたが、日常の忙しさの中で忘れがちな基本をきちんと振り返り、体系的に学ぶことができるこの講座の意義は大きいものであると感じています。

このような貴重な講座を受けられる機会をいただき、講義をしてくださった先生方をはじめ、研修を裏から支えてくださった職員の方々に深くお礼を申し上げたいと思います



News Letter no.26 ニューズ・レター 編 集：鹿野詩乃、高橋樹一郎 発行者：島 弘 発 行：日本図書館協会児童青少年委員会

日本図書館協会児童青少年委員会事務局 川下美佐子
Tel.03-3523-0816/Fax.03-3523-0841
E-mail: jidou@jla.or.jp